

ムーンショット新保プロジェクト³ELSIシンポジウム： ヒューマンエンハンスメント技術の 法的・倫理的・哲学的問題

サイバネティック・アバターは、人の身体的能力、認知能力及び知覚能力を拡張するICT技術やロボット技術を含む概念です。このような人間の能力拡張、すなわちヒューマンエンハンスメントは、私たちの生活や社会に革新的な変化をもたらす一方で、人の心と体が一つだという原則を揺るがすものであり、そのために多くの法的・倫理的・哲学的な課題を提起するものでもあります。

本シンポジウムでは、トランスヒューマニズムの専門家であるシュテファン・ゾルグナー(Stefan Lorenz Sorgner) ジョンカボット大学教授および技術哲学の分野で著名なマーク・クーケルバーグ(Mark Coeckelbergh) ウィーン大学教授をお招きし、ヒューマンエンハンスメントやその技術をめぐる諸問題に関してご講演いただくとともに、人間の尊厳とヒューマンエンハンスメントの憲法的問題を研究されている朱穎嬌山口大学講師による報告を行います。



日時：2025年3月7日 12:30開場 13:00～18:00

場所：京都市国際交流会館Kokoka

形式：現地及びZOOMハイブリッドで開催、日英同時通訳付き
参加登録・詳細・問合せはこちら：

<https://peatix.com/event/4249746/view>

プログラム：

- 12：30-13：00 開場／受付
- 13：00-13：10 開会挨拶（曾我部真裕 京都大学大学院法学研究科教授）
- 13：10-14：10 招待公演1：「私たちは常にサイボーグである」
シュテファン・ゾルグナー ジョンカボット大学 教授
- 14：10-15：10 招待公演2：「民主主義、AI、ヒューマンエンハンスメント」
マーク・クーケルバーグ ウィーン大学 教授
- 15：10-15：30 休憩
- 15：30-16：10 日本側の報告「弱いトランスヒューマニズムの視点から見た
ポストヒューマンの尊厳」
朱 穎嬌 山口大学経済学部 講師
- 16：10-16：25 コメント1
稲谷 龍彦 京都大学大学院法学研究科 教授
- 16：25-16：40 コメント2
小久保 智淳 東京大学大学院情報学環 助教
- 16：40-16：50 休憩
- 16：50-17：50 パネルディスカッション
- 17：50-18：00 閉会の挨拶

主催：京都大学曾我部研究室

後援：科学技術社会論学会、情報ネットワーク法学会、情報法制学会

本シンポジウムは、JSTムーンショット型研究開発事業（JPMJMS2215）の支援を受けたものです。